

平成 21 年 度 教 育 研 究 業 績 書

氏名 藤原 剛

最終学歴	京都大学農学研究科博士課程単取得満期退学
取得学位	京都大学農学博士
所属学会	日本ハンセン病学会、日本農芸化学会、日本糖質学会、International Leprosy Association
現在の専門分野	糖類の合成化学、免疫化学
研究課題	合成糖鎖を利用したハンセン病の早期血清診断法の開発 合成糖鎖を利用した抗体の抗原認識機構の解明

【研究上の特記事項】

- ・ 延世大学医学部（韓国ソウル市）のSang-Nea Cho博士との受託研究契約（研究課題：Prevalence of antibodies to phenolic glycolipid-I of Mycobacterium leprae among leprosy patients and their contacts; Chemical synthesis and preparation of NT-P-BSA）に基づいて、NT-P-BSAの大量合成をおこなった。これを用いて調製したML Flow testを用いたハンセン病感染の疫学調査をネパールで行っている。
- ・ 結核感染の診断用にTB-NT-P-BSAを合成し、Sang-Nae Cho 博士と共同で実用化に向けた研究を行っている。
- ・ 本年度もS. Buhner-Sekule博士を中心にブラジルで行われているハンセン病の大規模な疫学調査に参加して、NT-P-BSAに関する部分を担当した。また実際の医療現場の厳しい条件下でも使用できる、簡便で迅速な血液診断法の開発のために様々な合成抗原を調整しテストしている。
- ・ 昨年度に引き続きNT-P-BSAの血清学的性状と抗NT-P-BSA単クローン抗体DZ1の立体構造の詳細な解析を行なった。
- ・ おうえんポリクリニック等の外部機関からのELISAによる抗PGL-I抗体価の測定依頼やブラジル等海外の研究者からのNT-P-BSAの供給依頼に積極的に応じた。

【教育上の特記事項】

- ・ 講義科目ではプリント資料を詳しく作り、学生の関心が持続するようビデオ等を多く取り入れた。また、最近問題になっている話題をできるだけ多く扱うようにした。
- ・ 実験を含む科目では、実験のために必要な下準備はできるだけ教員側でやっておくことで時間的な余裕を確保し、受講生が落ち着いて実験する事ができるように配慮した。希望者には講義時間以外にも実験を行う機会を作り学習を深めることができるようにした。化学の知識が不十分な学生が多いので、できる限り実験マニュアルを詳細に作った上で繰り返し練習を行い、自信を持って実習に取り組めるようにした。
- ・ 世界遺産学概論Ⅰ： スライドを中心とした講義にして、学生が興味を持ってエルサレムの魅力を味わえるように努めた。
- ・ 表現技法Ⅰ： 学生が大学での学習にできるだけ早くなじめるように後押しすることを中心に、大学生生活を送る上で必要な情報、技術を伝えるよう努めた。

【社会的活動】

【学内活動】（学内職歴を含む）

教養部企画委員長 教養部人事委員 男子卓球部顧問

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文）				
（学会発表）				